

目次

ページ

増田 正明委員長	1
阿部 恵子副委員長	2
高野 美紗委員	3
阿部 浩子委員	4
仮屋 慶一委員	5
藤澤 重徳委員	7
西山 真希委員 (活動情報誌「地域・人・かかわりを求めて」P61、62)	9



「つながり」について考える

～高齢者の孤独・孤立問題～

社会教育委員 増田正明

数年前から私の住んでいる大熊区の高齢者ご夫妻がご自身の自宅である古民家を「憩いの場・縁側」として開放し、高齢者同士がお互いに「そこそこ」顔が見える関係づくりや魅力的な地域づくりにかかわる活動を展開している。その続編・令和7年度版。

ご夫妻の願い・思いは？！

人と人がゆるやかに  
出会い、つながる場  
にしてほしい。



人を信じ、絆を強める  
機会を増やしてほし  
い。

おしゃべりやカラ  
オケ、マレットゴ  
ルフなどを楽し  
み、健康寿命を延  
ばしてほしい。

サービスセン  
ターなどを利用し  
ていない人の「たま  
り場」にしたい。

※下の4つの※は私の注目している最近の社会情勢です。

※2023年6月

『孤独・孤立対策推進法』が成立

※様々な理由で家や部屋を出られない人たちの声が集まる

NHK ラジオ第1「みんなでひきこもりラジオ」

※『社会的処方』

(孤立を地域のつながりで  
治す方法)

○地域共生社会を実現す  
る鍵として近年注目  
されている。

※情報技術を使いこなし、

人を孤立や孤独から救い

上げようとする取り組み。

古書館カフェミライ (飯山市)



2025 (令和7) 年 11月6日「朗読&ギター演奏コンサート」

☆「やかの会」による朗読。・やか・とは「さわやか、おだやか、ゆるやか」などの「やか」だそうです。



調査研究方針

高野 美紗委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

<p><b>1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。</b></p>
<p>本年度、当カフェでは「つながりと多様性」をテーマに、子どもカフェの活動に取り組んできました。本活動は、子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供するとともに、地域における人との関わりを育むことを目的としています。</p>
<p><b>【成果】</b></p>
<p>本年度は、年齢や家庭環境などが異なる子どもたちが参加し、同じ空間で安心して過ごせる場を継続的に提供することができました。初対面の参加者同士による積極的な交流は限定的であったものの、それぞれが自分のペースで滞在できる環境を整えることができた点は、今後の活動に向けた基盤となる成果であると捉えています。また、子どもとスタッフとの関わりを通じて、顔見知りとなる関係性が一部で見られました。</p>
<p><b>【課題】</b></p>
<p>一方で、安心して過ごせる場を、参加者同士や地域とのつながりへと発展させる点に課題が残りました。スタッフの役割分担自体は行っているものの、役割に応じた主体的な関わりが十分に定着しておらず、交流を促す働きかけが限定的となっています。また、スタッフ間の情報共有や意思疎通が十分でないことにより、連携が円滑に進まない場面も見受けられました。加えて、広報活動を行っているものの、情報が参加者に十分浸透せず、参加率の向上につながっていない現状があります。</p>
<p><b>2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。</b></p>
<p>今後は、既存の役割分担を活かしつつ、役割ごとの具体的な行動内容や関わり方を明確にし、事前共有を徹底することで、スタッフの主体的な参加を促します。また、情報共有方法の見直しや振り返りの機会を設けることで、運営体制の改善を図ります。次年度は、安心して過ごせる場の提供を継続しながら、人と人とのつながりが段階的に生まれる子どもカフェの運営を目指していきます。</p>

調査研究方針

阿部 浩子委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

<p>1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。</p>
<p>・ 体協主催の行事として10月に地区対抗球技大会、11月に駅伝大会、2月にトレーニング講習会が開催されました。球技大会は地区代表による野球・ソフトボール・ソフトバレーの対抗戦、駅伝大会は地区代表のチームと日頃一緒に走っているチームの部門別に別れての大会でしたが、昨年よりもチーム数が増えました。地域の交流が希薄になりつつある昨今、貴重な大会と思っています。トレーニング講習会では「スポーツ障害を生じない運動指導のポイント」というテーマで長野県スポーツドクター協議会会長の加藤先生に講習を受けました。部活の地域移行が進む中で子供達の指導にあたる多くの指導者や競技者が集まりました。自分の経験からも実感しています。ケガは一瞬です。極端かも知れませんが、その瞬間を未然に防げれば一生が変わる。これからの子供達にケガをしない体を作ってほしいと思いました。</p>
<p>・ 11月1日北信地区社会教育研究大会に参加しました。講演会と分科会の二部開催で一部は「音楽でつなぐ絆～世代をこえて結ぶ「声」の力～」のテーマで清泉大学短期大学部山崎先生による講演会でした。音楽（歌）は自分の声だけで赤ちゃんからおじいちゃん・おばあちゃんまで誰もが一緒にできる唯一のこと…音楽の力に感動しました。二部は木島平村社会教育委員滝沢さんの活動を聞きました。滝沢さんが地域連携コーディネーターとなって役場・学校・地域をうまく繋いで、いろいろな場所・場面で誰もが参加できるような活動をしておられ驚きました。</p>
<p>2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。</p>
<p>社協の方とお話する機会があり、「つなぐ」と同じテーマの活動であったので一緒に何かできることがあるのかなと思いました。</p>
<p>「つなぐ」に関連することに意識をして、自分にできることを探していきたいと思っています。</p>

調査研究方針

仮屋 慶一委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。
今年度は、NPO法人北信州体操クラブ代表であり、社会教育委員、スポーツ推進委員として日野小学校の体育に関わり、ニュースポーツ、マット運動および跳び箱運動の指導に携わりました。学校教育の中に地域の知見や人的資源を取り入れることで、子どもの学びをより豊かにし、学校と地域の連携を具体化する機会となった。第一に、事前準備の段階では、授業のねらいと安全管理のすり合わせを最も重視した。担任や体育担当と相談し、学年の実態（技能差、恐怖心の有無、既習事項）を把握したうえで、技能の「できる／できない」を単純に評価するのではなく、段階的な達成（恐怖心の軽減、助走の安定、踏切の感覚、着地の姿勢など）を確認できる活動構成を意識した。また、器具の配置、補助の立ち位置、待機列の整理、マットのずれ防止など、事故の芽を事前に減らすことを指導計画に組み込んだ。第二に、実践場面では「安心して挑戦できる環境づくり」が成果に直結した。マット運動では、前転・後転の完成形を急がず、ゆりかご運動、手支持の確認、転がる方向の意識づけなどの基礎を繰り返した。跳び箱では、いきなり開脚跳びに入るのではなく、踏切板の使い方、両足踏切のリズム、手の着き方、着地位置の目安といった要素を細かく分け、成功体験が積み上がる順序で練習させた。加えて、補助が必要な児童には「身体を支える」よりも「動きを導く」声かけを中心にし、過度な介入で主体性を奪わないように留意した。第三に、学びの評価の観点では、結果だけでなく過程を言語化させることに手応えがあった。例えば「怖かったが、踏切板を強く押すと跳べる感じがした」「手を遠くにつくと体が前に進んだ」など、児童自身がコツを言葉にする場面を増やすことで、技能の再現性が高まり、友達への助言にもつながった。技能差があっても、互いの工夫を共有できる雰囲気生まれ、学級の協働的な学びとして体育が機能した点は大きい。一方で課題も明白であった。第一に、授業の制約の中で、個別最適な練習量を確保するには、より多様な練習ステーション（高さ・距離・難易度の選択肢）を準備し、待ち時間を減らす工夫が必要である。第二に、安全面では、成功体験が増えるほど子どもは大胆になりやすい。技の達成に伴って生じる油断や混雑を想定し、合図・ルール・動線を授業後半ほど丁寧に再徹底する必要がある。第三に、社会教育委員として関わる以上、「単発の支援」ととどめず、学校側に指導の視点が残る形（ポイントを簡潔に共有する資料、補助のコツの標準化、次時の指



調査研究方針

藤澤 重徳委員

「つながりと多様性」について考える

本年度上記のテーマを据えて委員一人ひとりの取り組みたいことを大切に活動してまいりました。可能な限りで結構ですので、ご自身の活動について振り返りご記入ください。

※委員の皆様には、定例会当日に一人二分間程度お話しいただきます。

1 この1年間の自分自身の活動についてご記入ください。
・ 「つながりと多様性」について考えるという調査研究の方針に沿うものばかりではありませんし、具体的な取り組みとして実行できたものでもありませんが、本格的に始動した生成A Iに対応する学びを社会教育と学校教育の壁を超越する形で創り出すことや人口減少問題への対応として不可欠と考える「高校教育の魅力化」にかかわる情報収集を続けており、自身の研鑽を深めるとともに多様な経験を持つ方々との交流に努めました。
1) 2月11日(水) 生成A I活用実践セミナー
本格的に始動した生成A Iに対応する学びをどのようにすすめるかという観点から、スマートデジタルライフのサポートを事業として手掛けるPCデポの生成A I活用セミナーに参加し、中野市の生涯学習のメニューの1つに生成A I活用にかかわる学びを加える必要があるとの確信を得ました。
2) 3月11日(水) 映画「女性の休日」
ジェンダー平等実現への取り組みが若年女性の流出による人口減少問題の解決のカギになるという観点から、ジェンダー平等が最も進んだ国として知られているアイスランド(ジェンダーギャップ指数16年連続1位)で1975年に起った前代未聞のムーブメント「女性の休日」を鑑賞しました。
3) 3月14日(土) スマートライフを学ぼう!! A O校祭
生成A Iに対応する学びをすすめて「A Iとの共生」をストレスなく実現したいという思いから、デジタル後進県長野におけるデジタル格差解消に取り組む清泉大学「ワクスマプロジェクト」の皆さんと交流し、中野市で生成A I活用にかかわる学びの必要性について意見交換しました。
4) 3月28日(土) 文部科学省主催「Shall we...? やったり、見てたり、いたり、ぬけたり」
文部科学省主催の共生社会コンファレンス「多様性×社会教育～ごちゃまぜの場の作り方」「障害者の文化芸術活動×社会教育～地域社会との関わり方」に参加をして、共生社会のあり方について学ぶ予定です。
2 来年度、さらに取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。
昨年度に引き続き、本格的に始動した生成A Iに対応する学びを社会教育と学校教育の壁を超越する形で創り出すことを当面の目標として活動をすすめていきたいと考えています。PCデポのデジタルライフプランセミナーや清泉大学



